第 47 回　自然観察会（池ケ原湿原）実施報告

自然保護委員長　栗木洋明

令和元年 5 月 18 日（土）～19 日（日）、第 47 回の自然観察会を飛騨市宮川町にある池ケ原湿原と乗鞍青少年交流の家周辺で実施。参加者数は、5 団体、42 名。今回の自然観察会は、初日は池ケ原湿原に直接集合し、その日は乗鞍青少年交流の家に宿泊、2 日目に山菜採り、観察、親睦を兼ねた昼食会という形で、1 泊 2 日の日程で実施した。講師は昨年に引き続き小野木三郎先生。1 週間前の悪天予報が運よく好転し、天候にも恵まれ、新緑と花々の美しい湿原散策と乗鞍の自然を十分楽しむことができた。

初日の池ケ原湿原は水芭蕉のピークは過ぎていたものの、リュウキンカは勢いを増し、湿原の主かと思うほど咲き誇っていた。昨年まで工事中であった木道の整備も完了し、湿原を隅々まで見学することができた。42 名という大所帯での観察会を心配したが、山々に囲まれた湿原独特の地形が幸いし、小野木先生の説明を明瞭に聞き取ることができ、充実した自然観察会を実施することができた。午後はニコイの滝を見学した後、2 時間かけて乗鞍青少年交流の家に移動。夕食後には小野木先生のパワーポイントを使った講義を 1 時間半受け、自然保護に対する意識をさらに深めることができた。

2 日目は、朝の集いや全員での清掃といった国立の施設ならではの行事の後、自然観察を兼ねた山菜の収穫。グループごとに勘を働かせ、各々出発。1 キロほど山を下った斜面が芽吹きのピーク。見る見る用意した袋に山菜がたまり、2 時間足らずで十分収穫することができた。キャンプ場に戻り種類別に分類してみると、皆が持ち寄った山菜は全部で 12 種類にも及んだ。分類した山菜を前に記念撮影をし、いよいよお目当ての調理だ。今年は参加者が多く、昨年にも増して生存競争が厳しく、私の口にはなかなか届きにくく感じた。なんだかんだでおいしくいただいているうちに 6 袋も用意した小麦粉が終了。残りの山菜は 42 等分してお土産として持ち帰った。閉会式後は、北アルプスの絶景ポイントを観察後、温泉あり、新緑の街道ありと、各々の思考で帰路についた。